

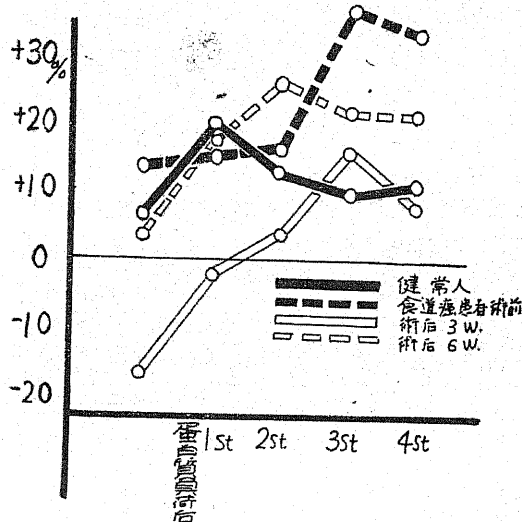
1~2時間目であります。

之が食道癌患者に於ては最高亢進度の平均 +22.4% で健常人の +10.5% に比し 11.8% の高さを示しその發現時間も健常人に比して遅延の著しいものがあります。

4. 含水炭素特異力學作用に就いて

先づ健常人3名に果糖 25gr. 水 100 c.c. を投與しますと平均 +4.0% の上昇を見ました。そして最上昇期は 1/2 時間目であります。これが食道癌患者に於ける最上昇値は平均 +15.1% の異常な高値を取り且つ亢進は持続的で 1 1/2 時間後も尙亢進は持續しています。

第3表 蛋白質特異力學作用



B. 術後の患者に就いて。

1. 基礎代謝の経過に就いて

食道癌手術後の患者が一時著明なる體力の失墜と低栄養状態を呈する事は論を俟ちません、手術直後の患者は測定すべくもありませんので第3週目より患者 17 名について測定を開始致しました。全治例の経過中に於て第3週目は基礎代謝負の値を取つているもの 12 例で平均 -16% となつています。そして第4週第5週と次第にその値は平靜となり第6週は全く健常範囲に入つて居り術前高値をとつたものも低値をとつたものも略々この時期に於て手術の直接又は間接の影響を脱し體力的にも機能的にも稍調和せる個體としての代謝能力を取戻して居ります。これを胃全剝、胃切除に比較しますと表 2 に示す通り全剝では 4 週胃切除では 3 週で舊に復して居ります。

2. 術後の蛋白質特異力學作用に就いて

○第3週目の特異力學作用に於ては代謝最上昇値の平均 +36.2% と驚くべき亢進度を示しその發現時間も健常人に比して遅延しています。

○第4週目では最上昇値の平均 +29.5% で發現時間も尙遅延しています。

○第5週目では最上昇値の平均 +22.6% となり時

間的ずれも少なくなつて來ます。

○第6週目にあつては平均 +18.1% となり發現時間は殆ど同じになつて來ます。

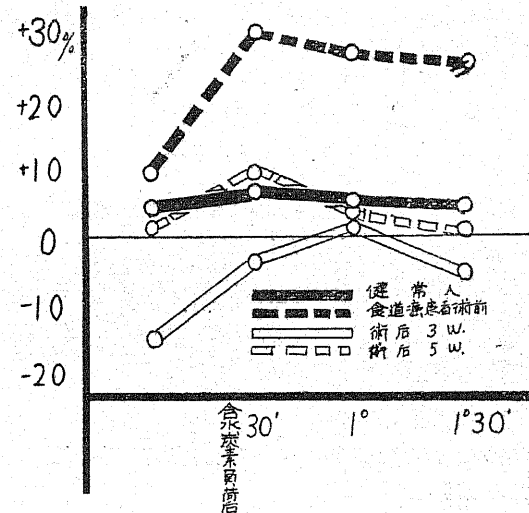
3. 含水炭素特異力學作用に就いて

これも第3週にあつては平均 +15.7% の最高亢進度を取つていたものが第5週にあつては +7.9% となり發現時間から見ても略々健常人の亢進率と言えます。

以上總括致しますと、

① 術前の食道癌患者の基礎代謝率は健常人に比し平均約 20% の亢進を示す。

第4表 含水炭素特異力學作用



② 基礎代謝より見た手術適應範圍は +10%~+30% の間にあり。

③ 蛋白質特異力學作用は健常人に比し遙かに亢進し且つ最高亢進時間は遅延す。

④ 含水炭素特異力學作用も健常人に比して著しく亢進し且つ持續時間延長す。

⑤ 術後の基礎代謝は第6週には略々正常に歸る。

⑥ 術後の蛋白質特異力學作用は第3週の亢進度及時間的ずれ最も大きく時日の経過と共に次第に良好となり第6週に近く健常人との差僅少なり。

⑦ 含水炭素特異力學作用にあつては第5週に於て殆ど正常値に歸る。(以上)

文 献

(1) Du Bois E. F.: Basal metabolism in Health and Disease p. 184. Lea & Febiger 1938.
 (2) Benedict F. C.: Arch. für Klin. Medicin. 110 (1929)
 (3) Boothby and Rountree: The Jour. of Pharm. and exper Therap. Voll XXII (1923)
 (4) Abelin: Biochem. Z. 205, 457, 1929. 4.: 33 121 6.; 34 1827. 7.: 10 1 1. 13.
 (5) 柳: 日本外科學會雜誌, 33回 121 頁
 (6) 長内: 日本外科學會雜誌, 34回 1827 頁
 (7) 佐伯: 榮養研究所報告, 10 卷 1 號 1 昭 13